

トフルゼミナール「交換留学帰国生小論文コンテスト」受賞作品（銀賞）

牛田 恭太郎 （AFS66期・2019年夏出発 フランス派遣生）

「今を生き、謙虚な好奇心を持つ」

3月18日の朝、スマホにメールが届いた。
そのメールには飛行機のチケットが添付されていた。
一時間ほどそれを見ないようにしていた。見るのが怖くて無視した。
昼頃になってそのメールを開いた。添付された飛行機の便には二日後の日付が書いてあった。

私は、2019年9月から2020年3月までフランスのロレーヌ地方に交換留学していました。
ホームステイをしながら、現地の理系の高校に通っていました。
高校では日本の文化を紹介するクラブを作ったり、友達と休み時間に学校の外で食事をしたり、放課後にはホストファミリーの買っている犬の散歩に裏山を上ったり、長期休暇には、家族と旅行に行ったりととても楽しく過ごしていました。
そんな中でのコロナウイルスにより、一か月前には全く予想すらしていなかった、早期帰国することになってしまいました。

早期帰国のメールが来た日には、ホストファミリーと一緒に号泣したのを覚えています。
無理にでもフランスに残るのか、それともメールに従って帰国するのかとても悩みました。
ホストマザーに、残った時のメリットとデメリット、帰国した時のメリット・デメリットを書き出すことを勧められたので、実際に書いて見比べてみました。
ホストファザーが「また今回のことが収まったら会えるから」と励ましてくれ、帰国することを決断しました。

留学生生活を始めて一か月たってからは、留学の目標や To Do List を書いて、自分の部屋の壁に貼っていました。
自分の中で自分のしようと思ったことをやってきたつもりですが、
やらずに後悔したことや予定を立てていましたが早期帰国で、できなくなってしまったこともありました。
この経験から、自分がすべきだと思うことをそう思ったときにすることがとても大切だとわかりました。

過去を変えたり、未来を予測したりすることはできないので、「今」を大切に、それを積み重ねていくことしかできないということに気づきました。

現地の友達と話していて、日本の学校について話題になった時に、学校の友達が私に、「どうして日本の学校には、制服があるの？ どうして自分の着る服も自分で選べないの？」と聞かれました。

その時に私はハッと、自分で選べて当然だという考え方のほうが正当だと感じました。

日本の学校では様々なことが校則として決まっています。

それに対し、フランスは自由をととても大切にしている国で、学校も自由な面が多いです。

私はここで、日本もそうしたほうがいいと思っているわけではありませんが、私が伝えたいことは「身の周りの当たり前は当たり前ではない」ということ、いろんな考え方があるということを知ってほしいということです。

そもそもこれは本当に意味があるのかと、一度身の回りの常識に対し、再検討することが大切です。

逆に私のホストファミリーは、コロナウイルスが蔓延しても日本での感染者が少ないことに対して、日本人は真面目でみんながマスクをしていて、公衆衛生が整っていて感染を抑えることができ、一人ひとりの意識が高く素晴らしいと言っていました。

外から日本を見ることによって、日本の特徴が分かってくると思います。

例えば、日本人の宗教観は非常に薄い日本人にモラルがあることは、海外の視点から見ると不思議なことだという話は有名だと思います。

外から見た視点を知ることで新しい考え方を得ることができます。

帰国してから、私は自宅で自主隔離・STAY HOME をしていたので、家にいる時間を利用して、zoom で知り合いこれから留学に予定の高校生に留学の体験話をしたり、また、ほかの留学生と zoom で体験を共有し合ったりしました。

コロナウイルスで外出できない中でも、オンラインを使えば遠くの人とも意見交換ができます。

意見交換の場や輪を様々な地域や国の人へと広げていけば、世界中の国や地域の人と zoom などのオンラインで意見交換をしたり討論をしたり授業を受けたりすることができるようになります。

家庭の経済的な理由で、留学の費用が払えず留学にいけない人や今回のコロナウイルスように感染症の蔓延などの理由により留学の中止や途中帰国になってしまった人でも、交流する機会を持つことができます。

オンラインを利用して世界中の様々な人と交流できる場を設けて、互いのことを知っていく場を用意するべきではないでしょうか。

ホストファザーが私に「最も賢い人というのは、自分が何も知らないということを知っている人だ。」と教えてくれました。

あれもこれも知っている人と威張っている人は、鋭い質問をされると答えられないもので、かつ、そういう人に限ってもっといろんなことを知ろうとしないのではないのでしょうか。自分が見ている世界はほんの一部なのだと自覚する謙虚な好奇心が必要であると思います。違う考え方の人を非難するのではなく、それぞれの考え方をまず知って、お互いがより良くなるように話し合い、考えて、互いの考え方のいい点を取り入れ、各々の問題点を改善しあうことが大切です。

謙虚な姿勢と好奇心を持ち、違った世界の考え方や意見を知り取り入れ、互いの考えを理解しあうことで、平和で揉め事のない世界を作っていきませんか。